

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	生活困難者支援のための市内資源拡充事業
事業名(副) <small>※任意</small>	市内全域へのネットワーク構築を目指して

入力数 主 19 字 副 19 字

実行団体名	特定非営利活動法人 ゆこびと
資金分配団体名	特定非営利活動法人 ACOBA

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/> 食品ロスの削減と、地域活動に参加したいと思ってもその機会を発見できない市民に活動と参加の経験を提供
------------------------	---

入力数 49 字

SDGsとの関連

ゴール	1. 貧困をなくそう
-----	------------

実施時期	2021年 4月 ～ 2022年 2月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> 鎌ヶ谷市)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	地域活動に参加したいと思っても、その機会を見つけられずにいる市民と、一人親家庭等の経済的、社会的に困難を抱える家庭	事業対象者人数	100人
------	---------------------	--------	--	---------------------------------------	---	---------	------

I. 団体の社会的役割

(1) 申請団体の目的	特定非営利活動法人ゆこびとの前身は、地域の困窮・貧困の子どもたちに対して食事と、互いに学び育まれる居場所の提供を目的とする任意団体として設立されました。その後、法人格の取得を機会に、これまでの活動の目的であった地域に暮らす子どもへの支援だけではなく、地域の高齢者等に対しても福祉サービスに関する事業を行い、地域福祉の増進に寄与することとし、現在に至っている。
(2) 申請団体の概要・事業内容等	2016年より「鎌ヶ谷子どもだんらん食堂」を月一回開催。毎回約50人が参加。2018年からは、より丁寧な支援の必要な子どものために「だんらんカフェ」を開始。現在は新型コロナウイルス感染拡大のため両方とも活動を中止している。活動中止の後はフードパントリー事業を開始し、主に鎌ヶ谷市内の20世帯を支援している。2018年には法人格を取得。2020年末の会員数は21名、活動を支えるボランティアは23名。

入力数 (1) 179 字 (2) 199 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題	鎌ヶ谷市で当法人が「こどもだんらん食堂」を始めて5年が経過した。そのなかで、より丁寧な支援を必要とする子どもたちがいることが分かったことから、こうした子どもたちを対象として「だんらんカフェ」事業を始め、食事だけではなく居場所づくりから学習支援、悩みごとの傾聴等の活動を行ってきた。この事業は継続することが極めて重要なことから、新型コロナウイルス感染拡大による「こどもだんらん食堂」開催中止後も月4回の開催を継続してきた。ところが、再度の緊急事態宣言が出されたことにより、この事業も中止を決断した。この「だんらんカフェ」の対象者は、社会とのつながりが弱く、生活支援も必要としており、事業のなかで信頼できる大人を知り、進学、アルバイト等によって社会とのつながりを回復しつつある。こうした現実の中で、私たちは貧困によって子どもたちは学校のなかであっても孤立化の傾向があり、将来の展望を持ちにくいことが理解できた。そして、ささやかではあるが、彼らを支援する大人の存在が、子どもたちが社会とのつながりの回復することに役立っていることを実感してきた。食堂の活動中止後は、食材の確保や各家庭へのフードパントリーをすすめてきたが、鎌ヶ谷市全域を当法人だけでカバーすることには無理があった。そこで明らかになったのは、鎌ヶ谷市内には食堂やカフェを通して人とつながることで社会とつながり、未来の展望を見出そうとしている子どもたちがいるが、彼らを支え、社会とのつながりを育む子ども食堂等の社会資源が鎌ヶ谷市に不足しているという事である。子どもたちが自らの力で食堂やカフェに参加しているときには、この社会資源不足は可視化されなかったが、新型コロナウイルスの感染拡大によって食堂やカフェの活動が中止になることで、この社会資源不足は可視化され、深刻な社会問題として、解決しなくてはならない地域課題として認識されるに至ったといえる。
---------------------------------	--

入力数 799 字

III.事業内容

(1)事業の概要
鎌ケ谷市では子ども食堂を作りたいという声を聞きますが、その立上げには至っていません。こうした方やステークホルダーにフォーラムに参加してもらい市内の機運を醸成し、協力者の開拓を行います。また、子ども食堂開設のノウハウを学ぶ講座の開催と当法人でのインターンを通して、実際の業務体験と対人支援スキルの学びも提供します。さらに、ワークショップとして市内を歩き食材提供事業者の開拓、子ども食堂開設の模擬ロールプレー、フードパントリーの立ち上げを行い、子ども食堂立ち上げへ具体的な伴走支援を行います。最後に再度ステークホルダーとの合同会議を実施、ネットワークの構築を互いに確認し、今後の課題共有の場とします。

入力数 298 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
今事業での達成をベースに市役所などのステークホルダーと個人情報を保護した形での効率的な情報提供と食材を中心とする支援物資を経済的・社会的困難を抱える家庭に届けるための市内全域のセーフティネットワークの構築を進める。さらに、市内の食品ロスなど過剰な所から食材が不足している所へと動かす流動性を事業資金で購入した軽ワンボックスカーにて行い、市内循環で食材等の提供支援がより行いやすい状態を目標とする。

入力数 198 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
鎌ケ谷市で子ども食堂やフードパントリーの活動を行おうとする団体が最低でも3つ、最大で6つ動き始めると共に、市内の商工業者から賞味期限が迫る食品を提供いただける関係が構築、食支援を通して市内ネットワークがスタートされている状態	1) 活動団体数 2) フードパントリー受援世帯数 3) 協力する商工業者数 4) 事業総括のための合同会議の開催	1) 団体の立上げ数、あるいは既存の団体の意思表示数 2) 受援世帯数、世帯人数の聞き取り調査 3) 団体数の確認 4) 合同会議の開催回数	1) 最低2団体、最大でも5団体 2) 100世帯 3) 10箇所 4) 1回	2022年2月

(4)活動	時期
1) フォーラムの開催 他市でのこども食堂運営者、鎌ケ谷社協、自治会連合会担当者	2021年7月
2) こども食堂立ち上げ運営のための実践的な情報提供及び仲間づくり講座を開催	2021年8月～12月
3) 当法人のフードパントリー事業でのインターン経験	2021年9月～11月
4) 地域の資源探し～フードパントリー実施等の体験ワークショップの開催	2021年10月～12月
5) 立上げ等の個別伴走支援の実施	2022年1月～2月
6) 参加者の体験発表会、事業の総括のための合同会議（講座参加者、市内のステークホルダー）	2022年2月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	御代川麻奈美：統括・会計責任者・伴走支援（子ども食堂実務） 吉田浩滋：フォーラム・ワークショップ進行管理・伴走支援（地域コーディネート） 甲斐貴子：講座・ワークショップ企画・伴走支援（チームビルディング、団体運営）
(2)他団体との連携体制	鎌ケ谷市社会福祉協議会、鎌ケ谷市自治会連合会、鎌ケ谷市商工会については、各個別的に講演内容、依頼内容の調整を行いフォーラムに参加してもらうことで、双方の役割、連携の仕方を確認し、団体間の意思疎通を図ります。最後にステークホルダーと再度合同会議を開催し、現状のネットワークの構築を互いに確認し、今後の課題を共有します。
(3)想定されるリスクと管理体制	新型コロナウイルスへの感染対策として、フォーラムは会場と自宅からの参加を可能にするZoomによるハイブリット方式で開催します。また、事業内容実施に当たっては、広い会場を確保し、ソーシャルディスタンスの確保、換気、会場入場前の検温、手指消毒、マスク着用を必須とします。 そして、新型コロナウイルスによる感染拡大の状況によっては、実質的な食事を提供する子ども食堂の開催はリスクとなってしまう可能性が有るため、開催が好ましくない場合にはフードパントリーを展開し、支援が必要な人へと繋がること、物資が届けられることを優先事項として事業を実施します。 傷害等の補償：対象参加者には適宜イベント保険やボランティア活動保険などを使用します。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
鎌ケ谷こどもだらん食堂事業：鎌ケ谷市こども支援課との共催にて4年間実施 だらんカフェ事業：鎌ケ谷市市民活動応援補助金事業として市内社会福祉事業者と協働にて立ち上げ及び実施を3年間実施 フードヘルプかまがや事業：食材の確保として、東葛フードバンク、食品ロスの循環を行っているNPO中央ライフサポート、子供食堂中間支援団体むすびえ助成金の受託、食材提供支援先として、鎌ケ谷市社会福祉課及びこども総合相談室と連携、定期的な食材提供と共に生活保護や給付金獲得までの緊急支援を実施している				